

平成26年度全国学力・学習状況調査における徳島県の結果について

1 調査の概要

○調査方式 悉皆調査

○実施日 平成26年4月22日（火）

○調査対象 小学校第6学年の児童，中学校第3学年の生徒

○調査内容

【児童生徒に対する調査】

・教科（国語，算数・数学）に関する調査

国語，算数・数学はそれぞれ，「主として『知識』に関する問題」と「主として『活用』に関する問題」を出題。

・質問紙調査

学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等に関する内容

【学校に対する調査】

・質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や教育条件の整備状況等に関する内容

○本県の実施状況（公立学校のみ）

・実施学校数 267校（小学校184校，中学校83校 ※特別支援学校各1校を含む。）

・実施児童生徒数 約12,470人（小学校6年 約6,230人，中学校3年 約6,240人）

2 教科に関する調査結果（公立学校のみ）

「主として『知識』に関する問題」（A問題）と「主として『活用』に関する問題」（B問題）における平均正答率は，次のとおりであった。

校 種	小学校（第6学年）				総 合	中学校（第3学年）				総 合	
	国 語		算 数			国 語		数 学			
教 科	A	B	A	B	合	A	B	A	B	合	
問 題 数	15	10	17	13		32	9	36	15		
平均 正答率(%)	徳島県 70.1	53.8	76.9	55.8		79.3	49.8	68.5	58.1		
	全 国 72.9	55.5	78.1	58.2	79.4	51.0	67.4	59.8			
全国順位	44	38	38	43	42	29	35	14	34	31	

※順位については，平均正答率から本県独自に算出した値である。

3 結果からみられる課題等の概要

- 全ての学年において、基礎的・基本的な知識・技能の習得と定着を一層図る必要がある。
- 全ての教科等において、資料等に含まれる情報を正確に読み取り、理由や根拠を示して自分の考えを話したり書いたりして伝え合うなどの具体的な言語活動の中で、知識・技能を適切に活用する学習活動の充実を一層図る必要がある。

【小学校】

- ・国語：漢字の読み書きや正しく書くこと、故事成語の意味と使い方の理解など、言語についての知識・理解・技能の確実な習得・定着を図る。
- ・算数：分数の相等及び大小について理解や、「図形」の領域における知識・理解の確実な習得・定着を図る。

【中学校】

- ・国語：資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く力や、根拠を明確にして自分の考えを文章にして書く力を育成する。
- ・数学：関数のグラフの特徴を事象に即して解釈する力や、問題解決の方法などを数学的に記述して説明する力を育成する。

4 今後の対応

全国学力・学習状況調査の結果においては、今年度は小学校において全国平均を大きく下回る結果となった。このことを重く受け止め、有識者で構成する学力向上・授業改善調査検討委員会を設置し、詳細な分析を行い課題を明らかにするとともに、年内を目途に改善策を示して学力向上に向けて取り組む。

- | | |
|---------------------|----------------|
| 第1回学力向上・授業改善調査検討委員会 | 平成26年10月 2日（木） |
| 第2回学力向上・授業改善調査検討委員会 | 平成26年10月20日（月） |
| 第3回学力向上・授業改善調査検討委員会 | 平成26年10月23日（木） |